

本年度の学校評価

本年度の重点目標	自ら考え、自らの目標に向かって主体的で積極的に学び続ける習慣を身に付けさせ、これからの複雑で多様な社会を生き抜くため、多くの試練に挫けない心を育てる。 また、思いやりと公共心を身につけさせ、礼儀正しい行動や言動をさせるなど、看護や福祉に関わることのできる社会人の育成を目指す。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	防災教育において、自ら考え主体的に行動する態度を育成する。	掲示物や配布物を積極的に活用し、防災意識を高める。	・大規模地震発生時の行動の基本的知識を習得するための配布物、掲示物を作成する。 ・昨年から継続して「防災だより」を発行する。
		防災避難訓練を通して、災害発生時の自助力・共助力を育成する。	・校舎内の災害状況や時間帯に応じて適切な避難ができるよう、自ら適切な判断をして避難等できるようにする。 ・体験的な活動を通して主体的な行動がとれるようにする。
教務部	自ら学び続ける態度と姿勢を育成する。	ICTを活用し、より主体的な学びの実現を図る。	・昨年度で、あいちラーニング重点校を終え、学校全体としてICTの活用がなされ、授業改善に取り組むことができた。今後もさらなる取り組みの推進や環境の整備に努めていく。
		スクールポリシーの具体化に向けて	・スクールミッションおよびスクールポリシーを具現化するためのカリキュラムや授業、評価のあり方などの見直しを学校全体で行っていき、コンセンサスを高めていく。
生徒部	生徒が自ら考え、判断し、行動する能力を育成する。	生徒集会や諸活動・行事を主体的に運営する力の育成を図る。	・生徒集会や、クリーン活動・募金活動・その他生徒会役員が公約に掲げている活動を、生徒に主体的に運営させるよう努めていきたい。
		体系的な防犯教育の充実を図り、自ら考えて判断できる能力の育成を図る。	・年間計画の中に位置づけられている防犯講座のみでなく、LT等を活用し、学年ごとに体系化された防犯教育を確立し、生徒の防犯に対する意識を向上させられるよう努めていきたい。
進路部	「前に踏み出す意識」を引き出す指導を目指す。	就職・進学指導を通して、主体的な進路選択とその実現のための思考と行動を促す場面や材料を提供する。	・ガイダンスや就職懇談会、通信、LT等の指導を計画的に行い、生徒が進路を意識する場面を数多く設ける。 ・生徒に必要な情報はいつでも提供できるように整理する。 ・2年生からの指導を重視し、生徒と担任が余裕をもって応募や出願の準備ができるように計画する。
		社会人としての基本的なマナーやコミュニケーション能力を身に付ける指導をする。	・主にコミュニケーション講習会、面接指導、履歴書作成指導を通して、実習で外部の人と接することや間もなく社会人になるという自覚を促す。
保健厚生部	生徒が自ら進んで心身の健康づくりをおこなうために必要な資質・能力を育成する。	生徒が、健康的で規則的な生活行動を身につける。	・生徒の心身の健康保持増進のための資質・能力の育成に向けて、がん教育を題材に教科等横断的な視点での取り組みの充実を図る。感染予防行動を継続的に実施する。
		生徒が悩みや困り感を発信でき、適応課題に適切に対応できるよう相談や支援を行う。	・生徒の心身の健康管理に関する課題を明確にするとともに、相談カードの活用方法の改善により連携を深める。 ・学校保健委員会において、学校行事や学年単位にソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、その課題解決に向け実施し、学校、家庭、地域の関係機関の連携の機会を設ける。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組	いじめの未然防止及び早期発見に対する取組を充実させる。	いじめ防止基本方針に基づき、生徒一人一人の小さなサインを見逃さず迅速かつ適切に対応する。	・いじめ不登校特別支援委員会を毎月1回開催し、情報共有から、いじめ等を未然に防止する。 ・言葉の行き違いや表現の不足などによるソーシャルスキルが身につけていないことが原因と思われる相談が増加しているため、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ自律心を育む。
1年	学習習慣の定着と基本的な生活習慣の確立を図る。	基礎・基本を大切にさせるとともに、主体的に学び続ける力を身につけさせる。	・学習目標を明確にもたせ、授業の大切さを認識させることで、授業へ真摯に臨む態度を身につけさせる。 ・学習計画を立てる機会を設け、家庭学習の必要性を認識させるとともに、課題の提出状況をこまめに確認・指導することで主体的に学び続ける力を育成する。
		学校生活に適応し、礼儀正しい言動がとれるよう思いやりのある心を育むことができる。	・活気のある学校生活が送れ、他者の気持ちを思いやることができるよう、挨拶の励行や部活動、諸行事へ積極的に参加できるよう支援する。 ・時間を管理できるような習慣を身に付けられるよう、細やかな指導を行う。 ・規則やマナー、時間を守り、集団生活に適した言動を自ら考え、主体的に行動できるよう指導する。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
2年	望ましい勤労観や職業観の形成及び学校活動への主体的に取り組む姿勢を養う。	個に応じた指導を充実させることにより、学習意欲や規範意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間での連携、情報交換を密にし、きめ細やかな指導を行うことで、自ら学ぶ意欲や態度を養い、継続的な学習習慣が確立できるようにする。 ・柔軟かつ丁寧な指導を行うことにより、看護や福祉に携わる者としての自覚を持ち、マナーやモラルに関する意識高揚を図る。
		多様化する生徒に対応しつつ、主体的かつ積極的に学校行事等へ取り組む姿勢を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事での経験を通して、集団としての規律や学校、クラスの帰属意識が強まるよう支援するとともに、責任ある自主的な行動の大切さを意識づける。 ・修学旅行では、生徒が段階的に事前学習に取り組み、主体的な学習活動ができるよう指導し、より多くの学びを得られるよう支援する。
3年	成年としての自覚と責任をもたせ、主体的に社会貢献する態度を養う。	最上級生としての自覚をもたせ、他学年の模範となるような責任ある行動力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事など様々な活動においてリーダーシップを発揮し、主体的に他の生徒と折衝しながら物事を完遂させることができるようにする。 ・自らの行動が周囲に与える影響を考え、他者の意見を取り入れながら適切な行動がとれるよう指導する。
		主体的に地域社会の発展に貢献しようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの良さを生かした進路目標を立てさせ、地域社会の発展に貢献しようとする意志の育成を図る。 ・個別面談の機会を充実させ、進路実現に向けた支援を行う。
衛生看護科	主体的に学び続ける力と人や社会を大切にできる人間性を育成する。	協同学習を通して、主体的に学び続ける力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・協同学習や校外実習をとおして、他者を認め、物事の根拠を理解、解釈する思考力を育成する。 ・体験的な授業の実践から、自ら課題を見つけ問題を解決できる力の育成と基礎力の向上を図る。
		地域社会や学校行事を通して、柔軟な発想や誠実な態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な活動をとおして自己の役割に気づき、他者との違いを受け入れる柔軟な思考力を育成する。 ・地域社会や学校行事をとおして、広い視野を持ち、人と社会の繋がりを理解できる力を育成する。
福祉科	専門的な知識・技術の定着及び社会や地域に貢献できる人材を育成する。	学習や資格取得に積極的に取り組む姿勢を培うとともに、より実践的な対応力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるわかる授業を実践し、課題解決型の学びを通して思考力を高め、確かな知識・技術を身に付くよう、きめ細やかな指導を丁寧に行う。 ・教員間の情報共有を密にし、個に応じた指導を行うことで、主体的に継続して取り組む姿勢を育成する。
		福祉科行事や校外実習での体験的な学習等を通して、豊かな人間性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な活動を通して他者の気持ちを思いやり、自ら考えて主体的に行動する力を養うとともに、コミュニケーション能力の向上を促す。
専攻科	健やかで知性豊かな人間性を育成する。	看護職に求められる人間性を理解させ、学生が自ら考え行動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・協働学習を通じて倫理観（看護倫理）の理解と対人関係能力の強化を図り、他者理解や自己理解について思考し、自己研鑽する力を育成する。 ・学生自身が目標を定め、主体的で積極的に学び続ける習慣を身に付けさせる。
		専門的な知識と技能を習得するために必要な学習に取り組み、看護師国家試験の全員合格を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識と技術を身に付けるためのICT教材を活用した教材開発を行い、看護場面で必要とする判断力や思考力、表現力を育成する。 ・国家試験対策の一貫として、専攻科1年次から年間を通して朝のST時に小テストや模擬試験、補講を計画する。学習を継続して行うことで、学力の定着を図る。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の取組	業務内容の精選を進め、教育職員のタイムマネジメント力の向上を図る。	愛知県立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則・方針に基づき、在校時間を客観的に把握し、時間外在校等時間の上限(1ヶ月45時間、1年間360時間)が遵守できるよう業務改善・勤務状況の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の月別集計が前年度から改善できているか確認し、長時間勤務の原因を把握・分析後、適切な指導助言に努める。 ・適切な施錠時間の設定を行う。 ・業務改善のグッドサイクル(PDCAサイクル)について周知し、教職員のタイムマネジメント力に繋げる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目			<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら考え、主体的に行動することのできる人」の育成 ・「他者の気持ちを思いやることのできる人」の育成 ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止